

討議テーマ一覧と  
アンケートのグループ別集計  
(Cグループ)

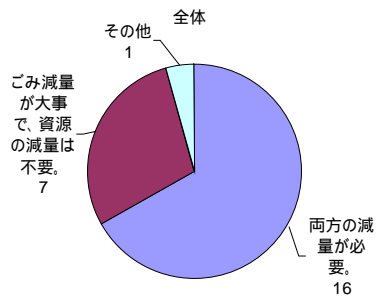
なごや循環型社会・しみん提案会議  
実行委員会

# 討議テーマ一覧

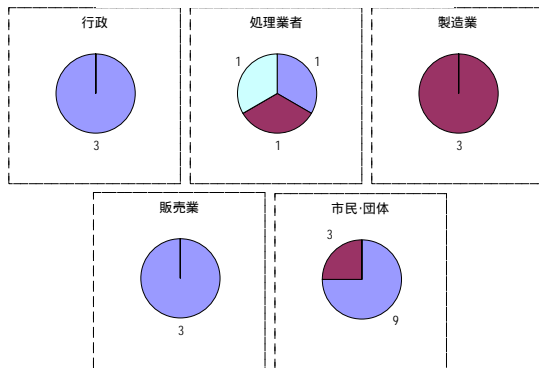
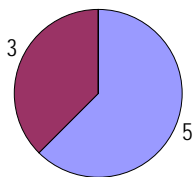
討議テーマ	必須	自由
不要物の削減、ごみ削減	ごみ減量でよいか？資源の減量も必要か？ そのほか、容器のリターナブル化や、レジ袋削減の具体的な方法について	
生ごみ対策	生ごみリサイクルの方法は？	
リサイクルの方向性	プラスチック類のリサイクル方向性は？	
焼却の方向性	エネルギー回収の優先順位も含めた焼却処理のあり方は？	
埋立の方向性	埋立量の“最少化”と“ゼロ”の解釈は？	
費用負担、ごみ有料化など	有料化の位置づけは？“有料”や“得”と意識啓発との関係は？	
意思決定、取組みの場、役割分担	しみんの具体的な役割分担とは？ そのほか、ボランティアからビジネス展開まで、今後の必要となる活動の場について	
教育・人材育成	教育・学習プログラムや体制を充実させるためのポイントは？	
情報・コミュニケーション	より効果的な情報発信・交換とは？（届く情報・盛んな交換とは？）	
価値観・ライフスタイル	なごやで共有すべき価値観とは？普及・実践のための方法は？	

# 不要物の削減, ごみ削減

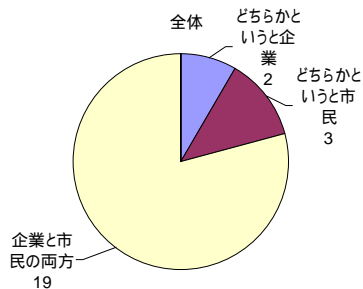
## 問1 ごみと資源の両方の減量



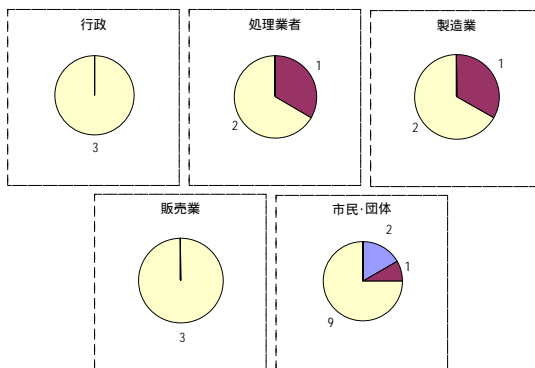
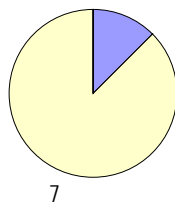
Cグループ



## 問2 発生抑制の推進主体

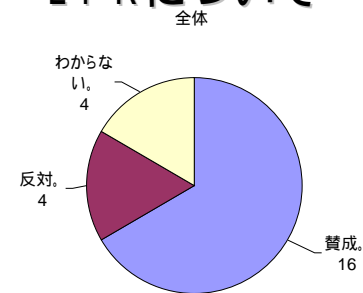


Cグループ

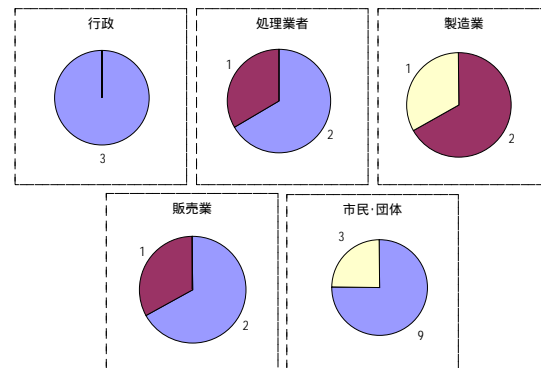
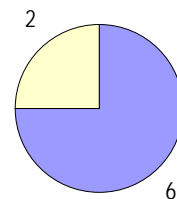


(付帯意見)  
 結果として消費者が責任をもつ。

## 問17 EPRについて



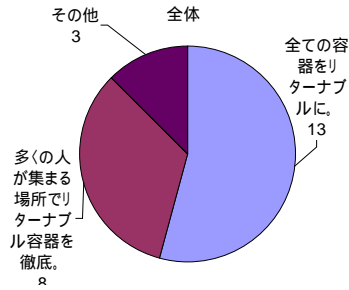
Cグループ



(付帯意見)  
 この問だけなぜ解説がないのか。  
 生産者サイドが責任を持つことは、そのコストが製品価格に上乗せされて、消費者が責任を持つこと、ゴミによるコストの安い方が強くなるので、減量へ経済的動機を与える。

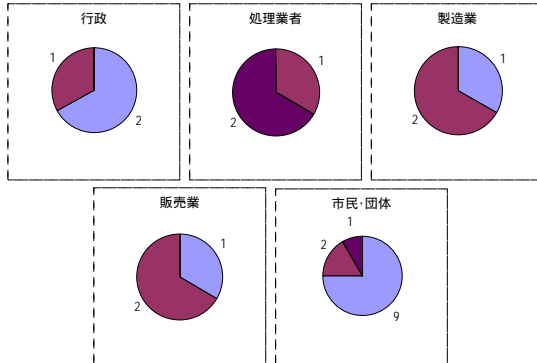
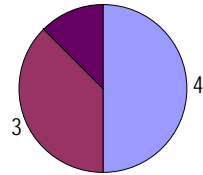
# 不要物の削減, ごみ削減・・・その2

## 問3 飲料容器のあり方



Cグループ

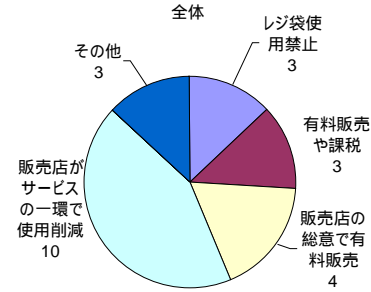
1



(その他の記述)

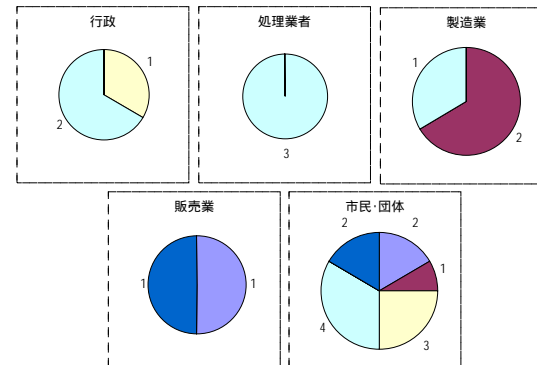
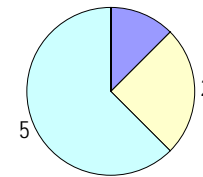
残念ですが、現在の生活環境, 消費者の要望多いと思うと, ワンウェイでもやむなしか。

## 問16 レジ袋の扱い



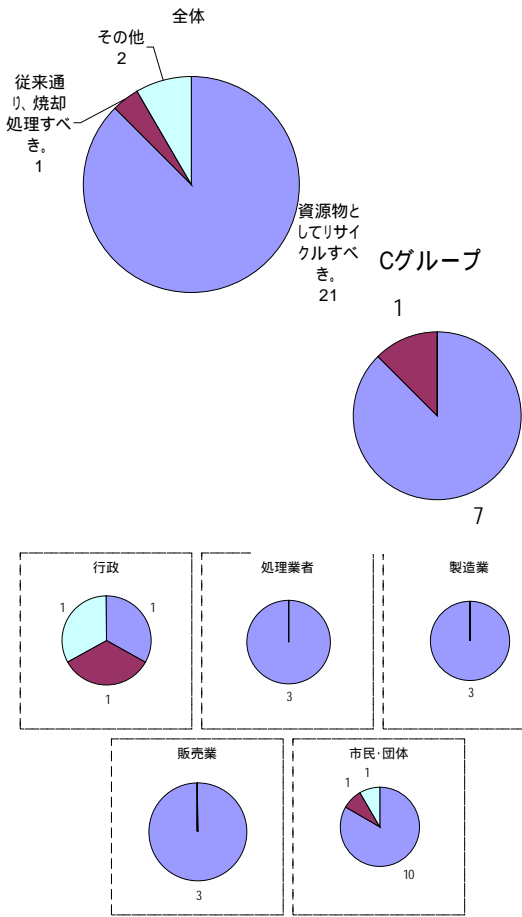
Cグループ

1



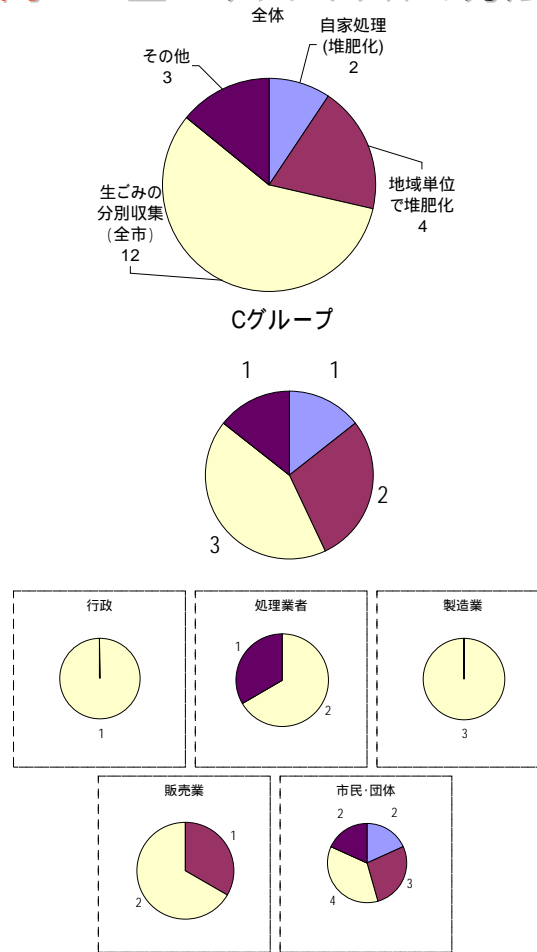
# 生ごみ対策

## 問10 生ごみの扱い



(付帯意見)  
資源物ではなく有機物として

## 問11 生ごみリサイクルの方法

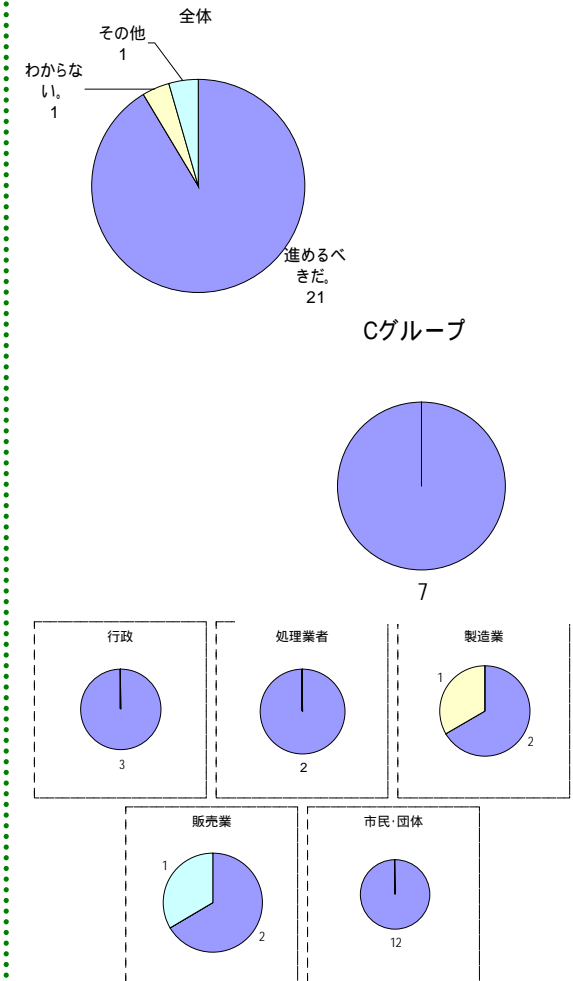


(その他の記述)

この問には、色々な方針を組み合わせ  
せて進めるのがよい。

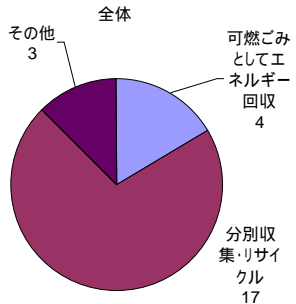
一つの方法に限らない。市民が選  
択できるようにする。

## 問12 生ごみそのものの減量

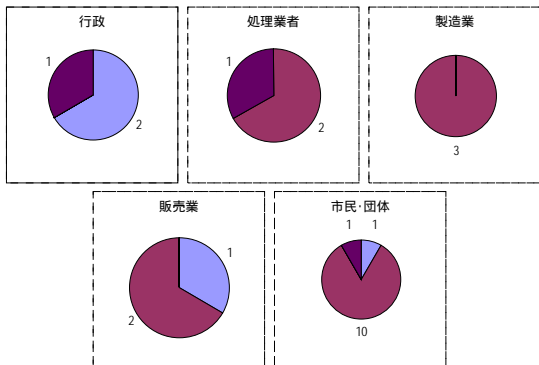
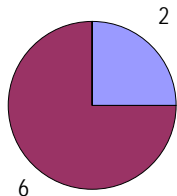


# リサイクルの方向性

## 問13 容器以外プラ類の扱い



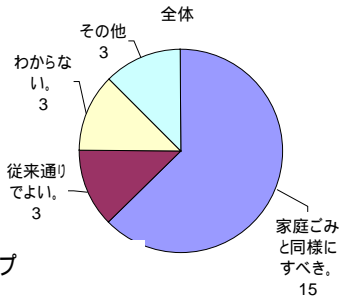
Cグループ



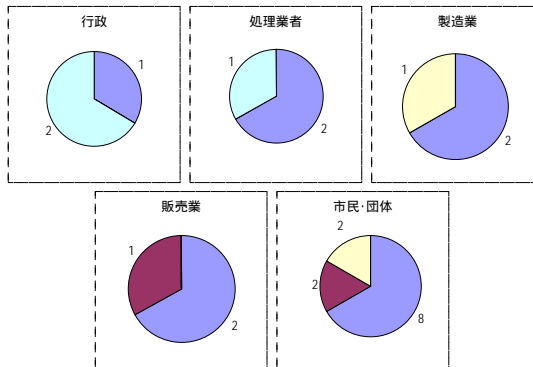
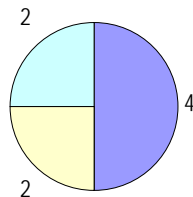
(付帯意見)

埋め立てとか具体的に書くべき

## 問19 事業所からの資源の扱い



Cグループ



(その他の記述)

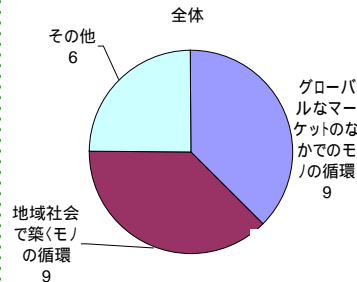
事業者の取組みやすい仕組みを作ってリサイクルすることが必要

事業系ごみ、資源は全て排出者責任で処理させるべき

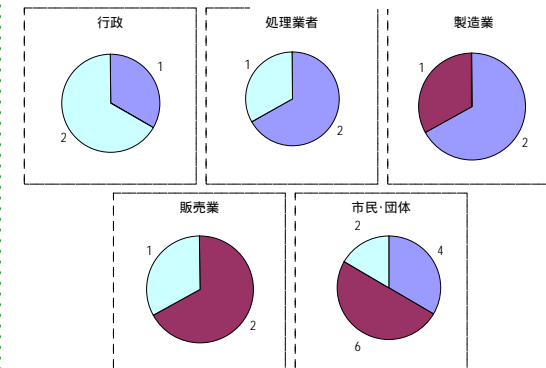
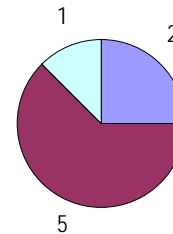
(付帯意見)

これまでのしくみが何故つくられてきたか、すべてを見直す必要があると思うので、情報不足

## 問21 資源物の循環



Cグループ



(その他の記述)

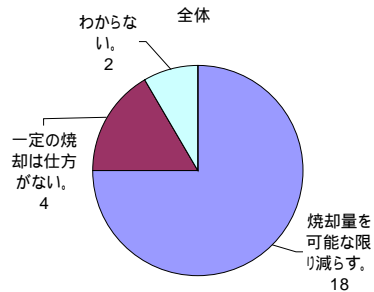
グローバルとローカルの組合せによる循環を考えていくべき

(付帯意見)

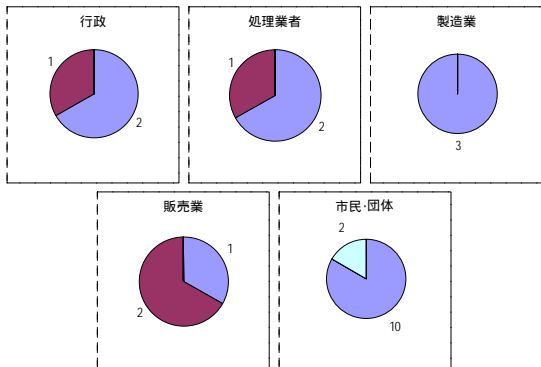
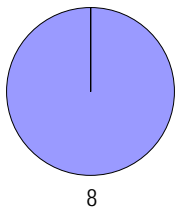
持続可能性を優先して考えるか、どっかできくべき。すれば、地域での自立、自給が望ましく環境負荷の少なく、おいしい旬のもの、地域の産物を食べられる、しくみが維持されるように考える

# 焼却の方向性

## 問5 焼却処理のあり方



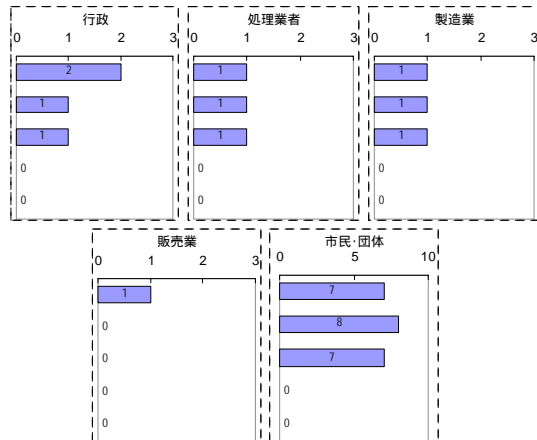
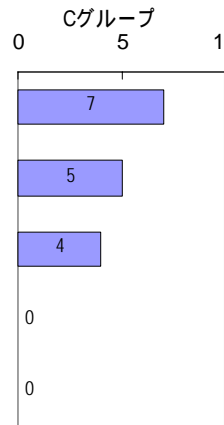
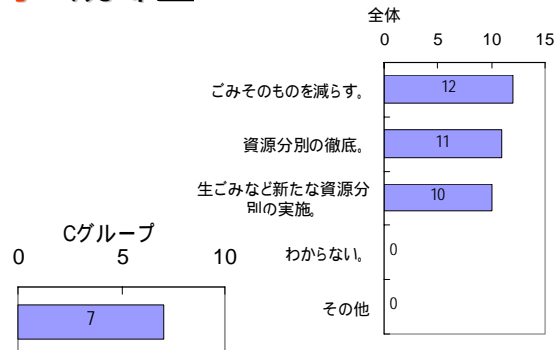
Cグループ



(付帯意見)

「環境対策が十分に施されていれば」という表現は恣意的な条件だ。十分な対策などないはず。

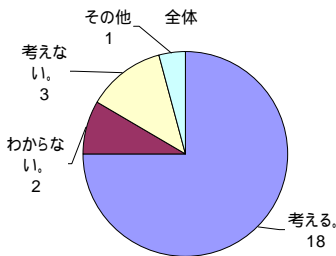
## 問6 焼却量の減らし方



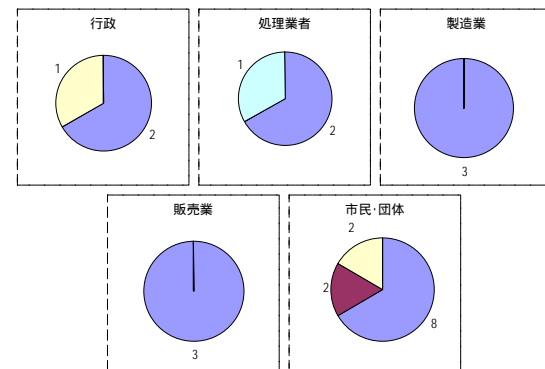
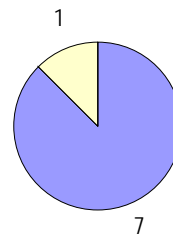
(付帯意見)

発生抑制(生産の段階で廃棄までのことを考えた設計)などリユースの推進。当然、どれにも がつくような設問は意味がない。優先順位を問う方がよい。「脱焼却」: 焼却は衛生上必要なものに限り、その他は減らしてゆく基本方針を明示すること。

## 問20 焼却+エネルギー回収を必要機能と考えるか?



Cグループ

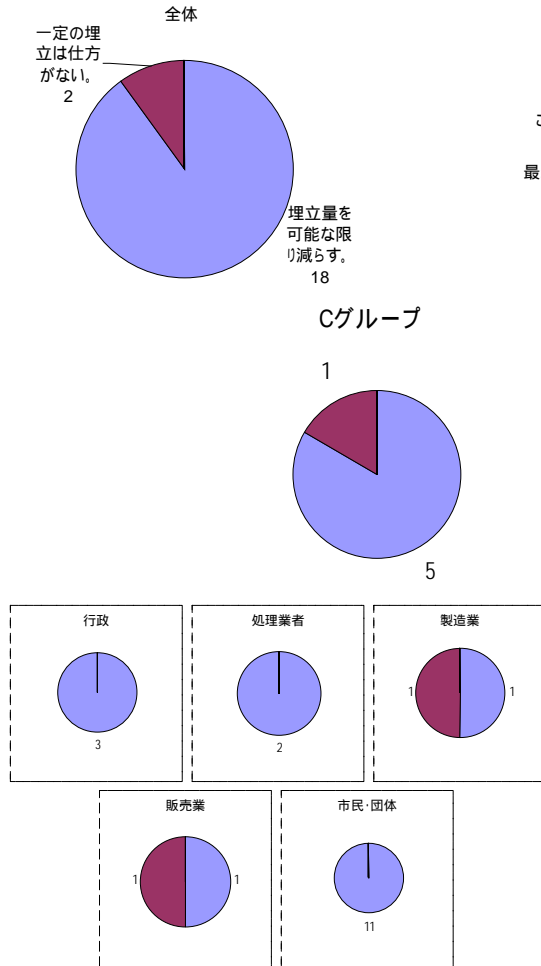


(付帯意見)

焼却を正当化するように思われる。

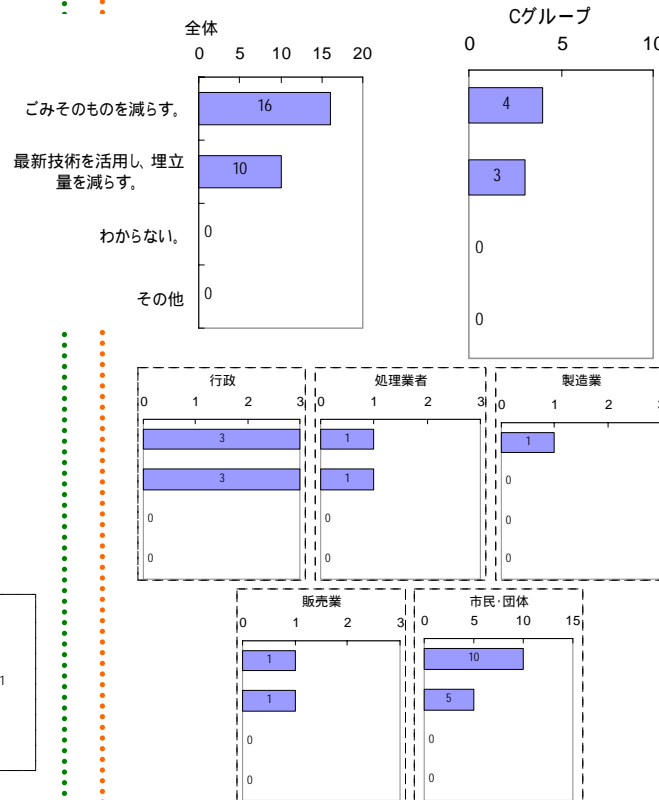
# 埋立の方向性

## 問7 埋立処分のあり方



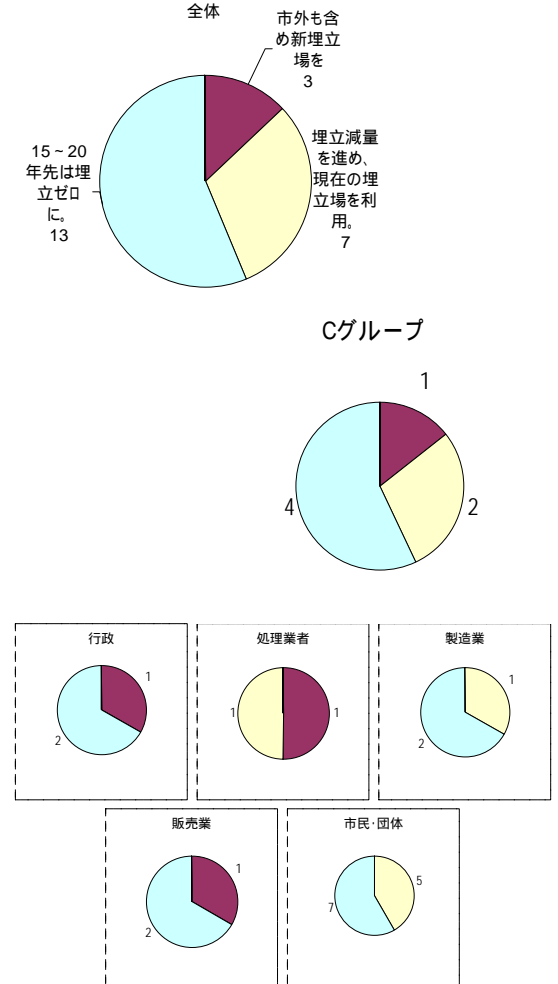
(付帯意見)  
環境対策が十分に施されていればという表現は恣意的な条件だ。十分な対策とは何か。問2、問3とも設問があいまい。“可能な限りへらすべき”と“一定量は仕方がない”は重なる。これは“減らす努力をすべき”と“減らす努力をしなくて良い”の2つで問うべき(明快な対立概念)

## 問8 埋立量の減らし方



(付帯意見)  
最新の知見、技術を活かし、研究して、ゴミになるものをつくらない。使わないと書くべき。最新技術は未だ確立してない問題の多い技術。スラグ利用 - 燃やしたゴミをさらに燃やして鉄を溶かすような温度で。焼却・埋立をどうしても必要なものに限って、ゼロにしていく努力が必要。そのためには、どうするかと逆転の発想(バックキャスト)が「ゼロ・ウェイスト」の考え方である。

## 問9 次期埋立場整備について

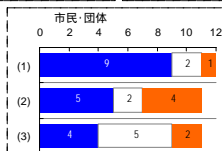
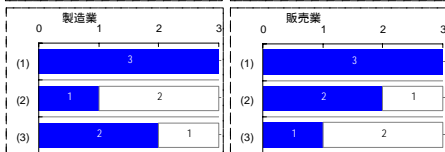
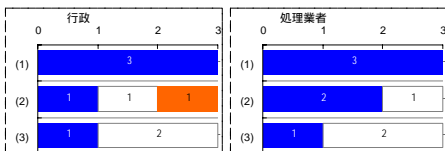
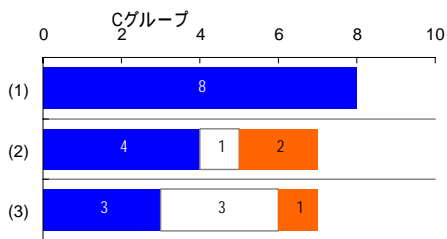
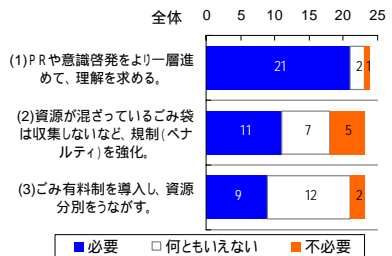


(付帯意見)  
「埋立ゼロ」の決意をもってやっと「現有施設の延命利用」が達成できるのだろう。



# 費用負担,ごみ有料化など

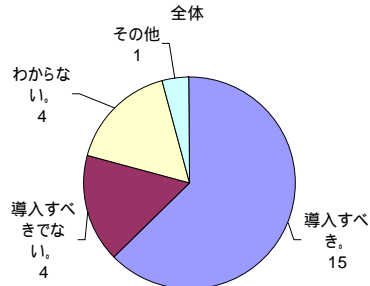
## 問4 非協力者への対策



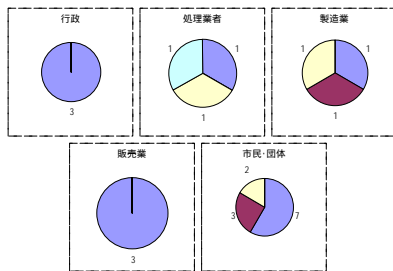
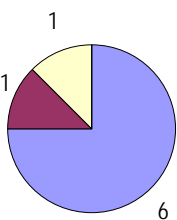
(付帯意見)

選択肢だけに理由(期待)をきくのはおかしい(恣意的)。理由も尋ねるべき。問題の本質を見えやすくする。生産者(消費者)に、ごみ処理コストを上乗せして、減量動機を作るべき。税の二重取りになる。2000年当時、有料化で3割減ると市が構想したが、その前にやるべきことがあると、市民が反対し、有料化もせずに3割減った。有料化すれば、お金さえ出せばよいという風潮を助長し、持続可能な環境づくりをめざす動機がうすれる。

## 問14 家庭ごみ有料化



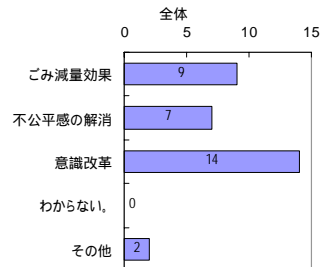
Cグループ



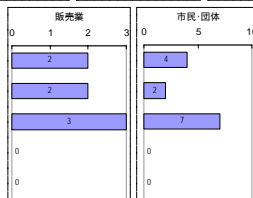
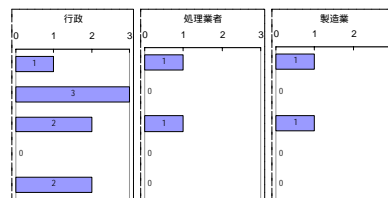
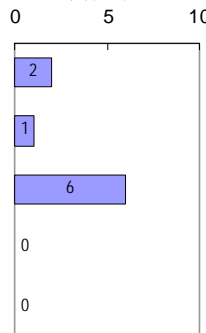
(その他の記述)

有料化には賛成だが、ごみの分別・削減に積極的に取り組んでいる人とそうでない人とそうでない人とは何らかの金額・格差があってもよい。

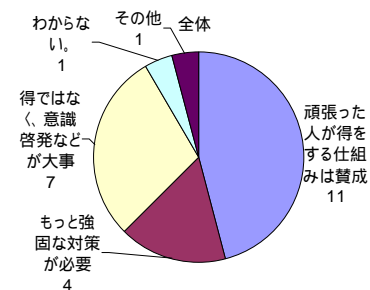
## 問15 有料化の効果



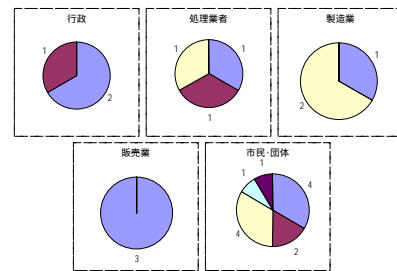
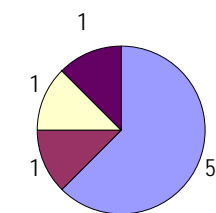
Cグループ



## 問18 得をする仕組み



Cグループ

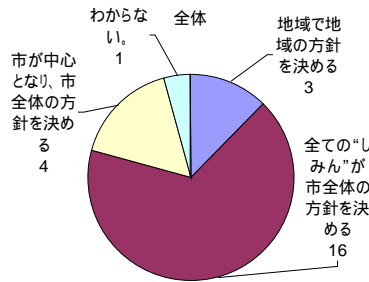


(その他の記述)

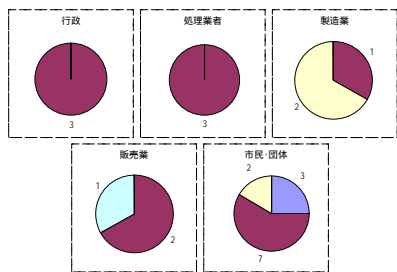
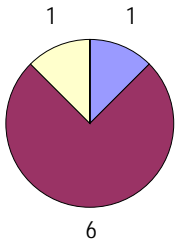
今のゴミ処理は、税金で行われるので、消費して負荷をかける人の分を消費しない人も負担。これが最大の不公平。受益者(消費者と生産者)がしかるべき負担をきちんと負うようなくみをつくることが第一、この種の“お得”、“ペナルティ”で気を引くのは、問題の本質を見えにくくする。

# 意思決定、取り組みの場、役割分担

## 問22 方針決定の方法

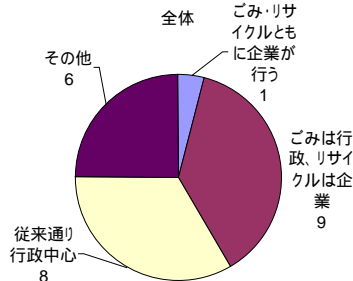


Cグループ

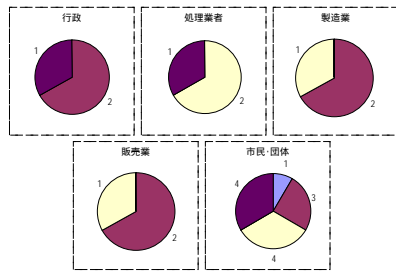
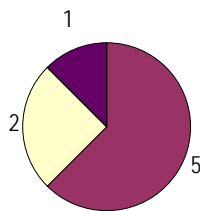


(付帯意見)  
地域とは何か？ どう対立するかわからない。地域の差が出ても当然。

## 問23 ごみ・リサイクルの役割分担



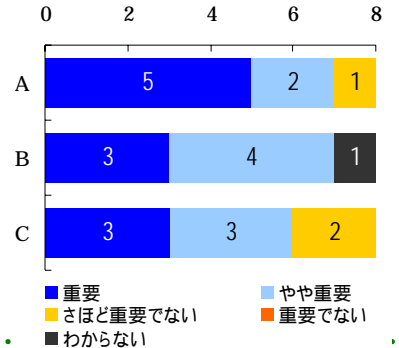
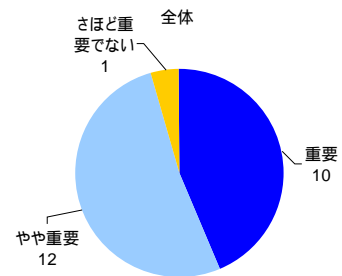
Cグループ



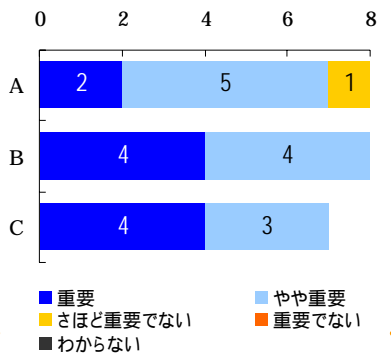
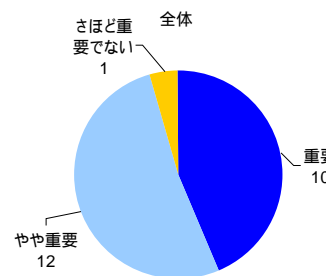
(その他の記述)

行政が今持っている仕組みを活かして、費用負担は受益者(生産者、企業)がもつことで、経済的な減量動機を持たせる。

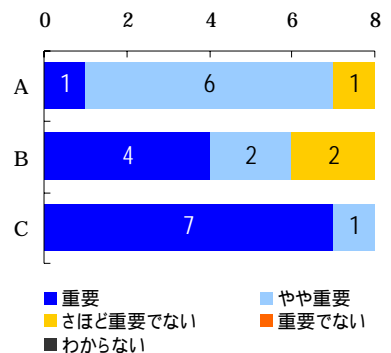
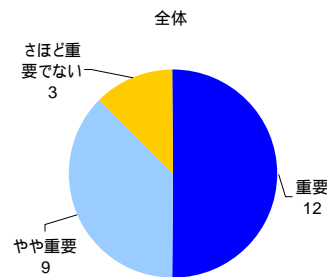
## 問25(2) 中高年・退職組の活動の場



## 問25(3) ごみ・環境のビジネス・雇用

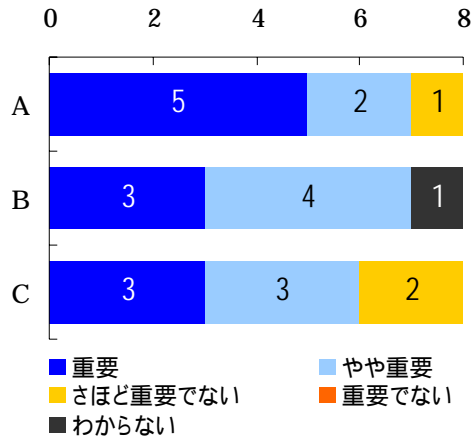
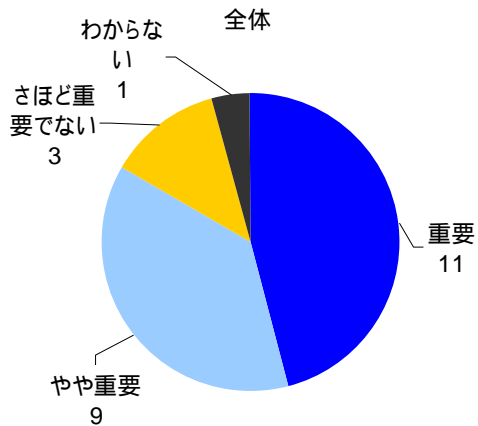


## 問25(4) 異なる世代の交流の場

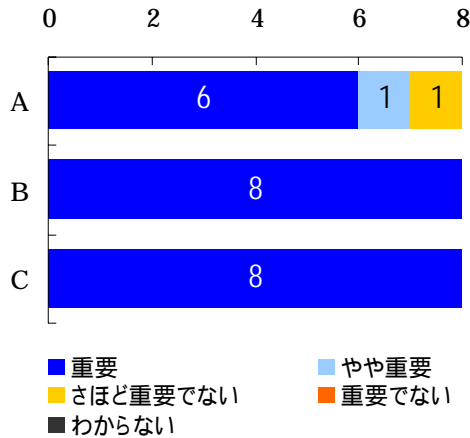
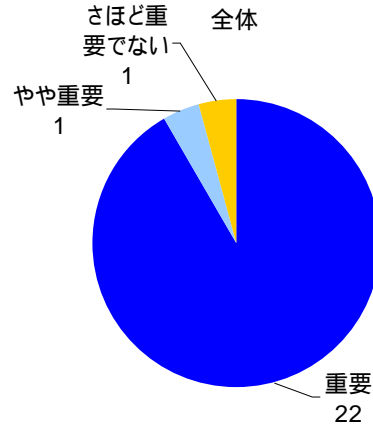


# 教育・人材育成

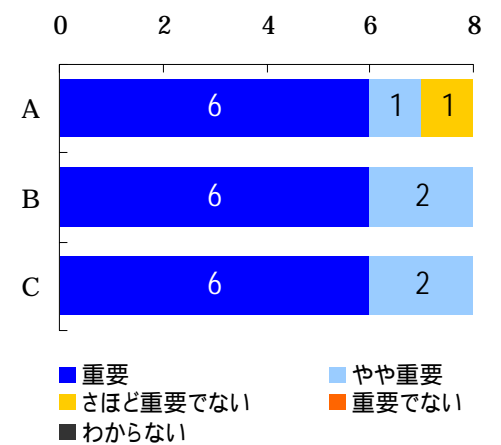
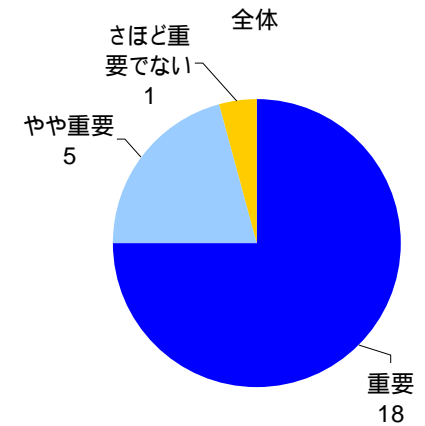
問25(1)地域リーダーの育成



問25(8)実践につながる教育・学習

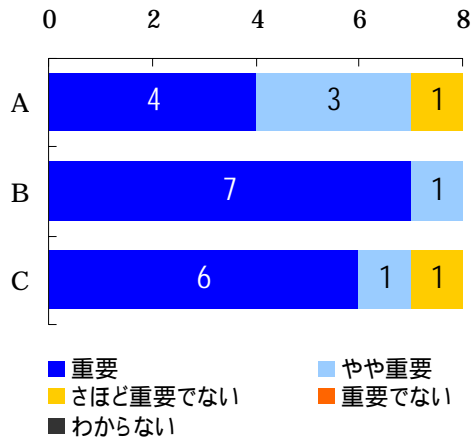
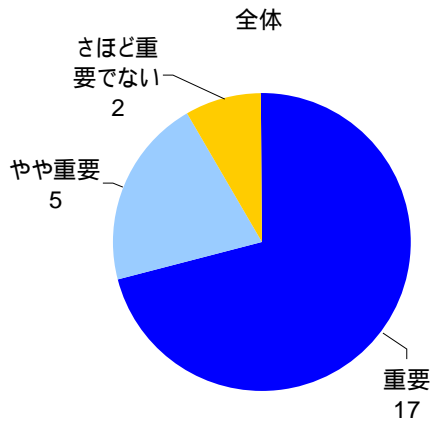


問25(9)大人や企業への教育・学習

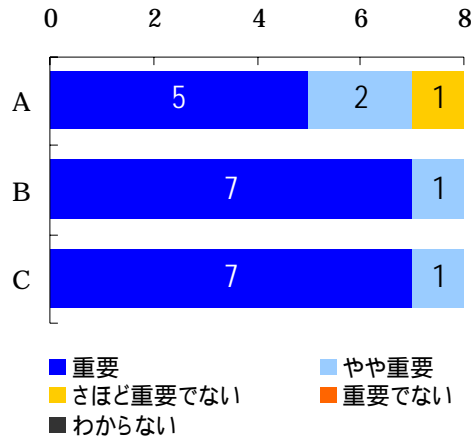
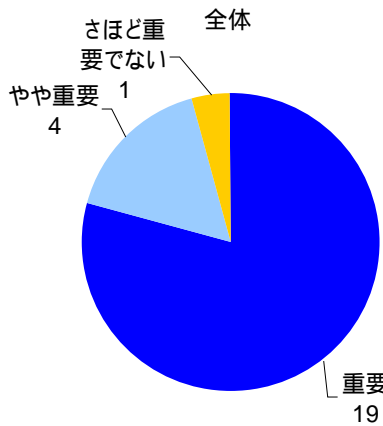


# 情報・コミュニケーション

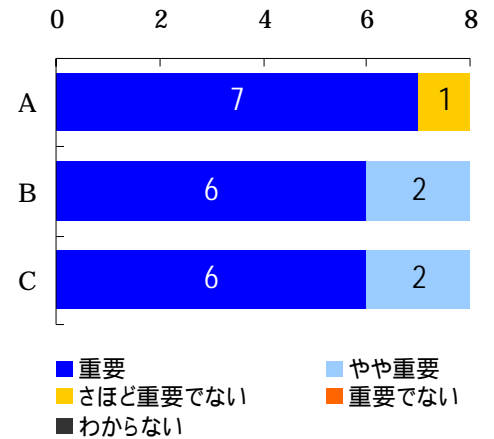
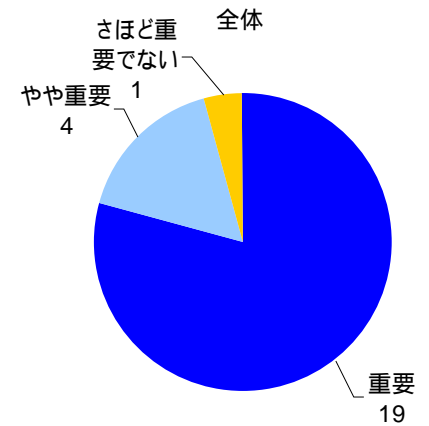
問25(5) 企業と消費者のコミュニケーション



問25(6) ごみ量・費用・負荷の情報

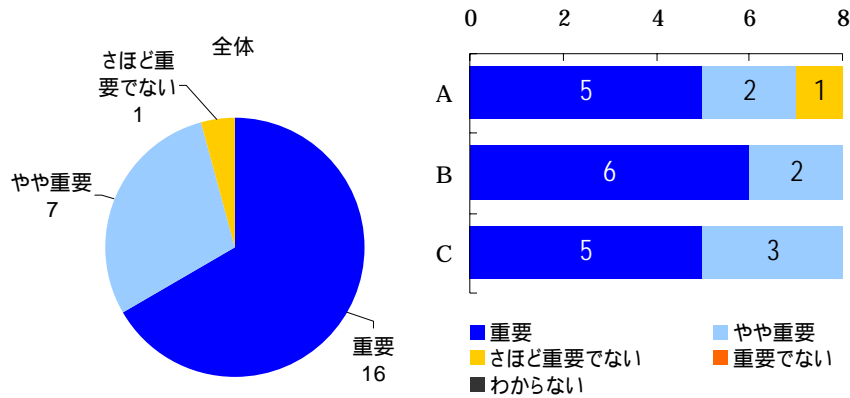


問25(7) ごみ減量効果の情報

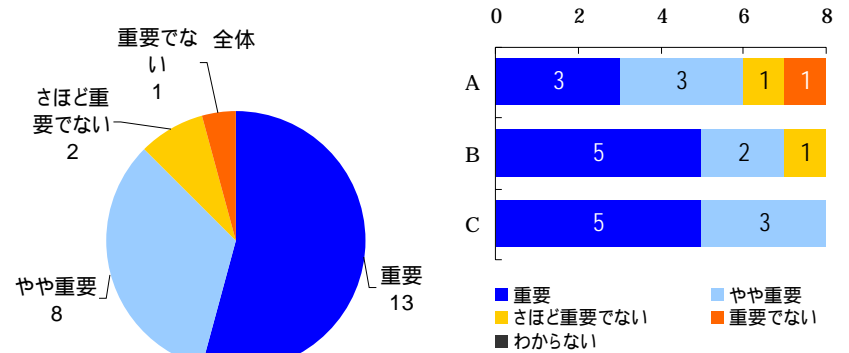


# 価値観・ライフスタイル

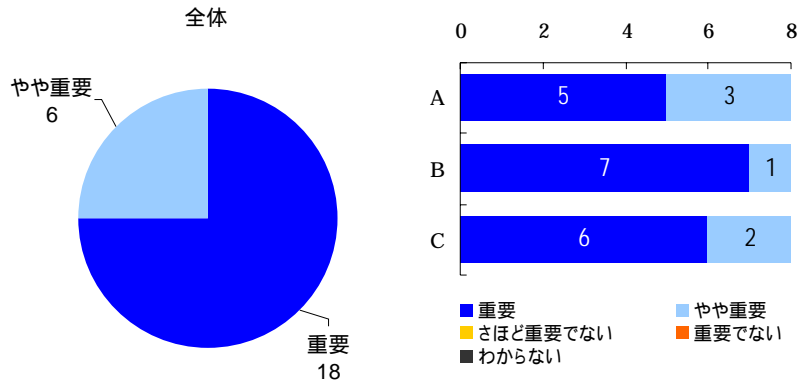
## 問25(10) 環境に価値をおいた買い物・消費



## 問25(12) 不要なモノがゼロになる社会像や目標の共有



## 問25(11) 「もったいない」などの考えの普及と実践



## 問25(13) スローライフなどの価値観の普及と実践

